

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

神山中学校
「学力向上実行プラン」

- ①わかる授業の創造
- ②主体的に学習に取り組む態度の育成

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な学力については、全国調査でも一定の成果が見られる。出された学習課題も概ねやり遂げられている。 ●既習事項の確認や反復練習が十分でないため、知識が定着していない生徒が少なくない。自主学習ノートの内容に個人差が大きい。	・自主的に家庭学習に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・研究授業を実施し「わかる授業」を目指す。 ・『やり遂げタイム』で、家庭学習の仕方を習得させる。 ・テスト反省や、授業の復習を徹底的にさせる。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』を支援する。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけられるように、個に応じた学習内容で家庭学習に取り組ませる。	・定期的に研究授業を実施し、ペア学習やICT教材を用いて、生徒に分かりやすい授業を実施することができた。 ・やり遂げタイムは規模を縮小しながらも実施することができた。しかし、異学年交流をもっと活かせる取り組みが必要である。	身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現をめざす。次年度は勉強法についての意見交流やアドバイスの機会を持つことを検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の授業や行事において、積極的に発言できている生徒が多い。 ○意見や考えを導こうと努力する。 ●様々な文章や資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめ論理的に説明することを苦手とする生徒が多い。	・根拠を明らかにして、自分の考えを書いたり説明したりできる。 ・情報を収集し、問題を解決する力を身につける。	・授業では、根拠を明らかにして発言する機会を意図的に設ける。 ・主体的で深い学びになるよう協同学習の場を設定する。 ・10分間作文を書かせ、発表会を開催する。 ・合同学習で意見を積極的に発言させる。	個人が自分の意見をじっくりと考えられるように、十分な時間を確保する。生徒に合わせて、提示資料の精選を行う。	・学年が上がるにつれ、自分の考えを筋道を立てて述べることのできる生徒が増えた。しかし定期テストでは資料の読み取り問題を十分理解できない生徒も多くみられた。 ・合同学習では班員と協力して与えられたテーマについて考え、発表することができた。	資料から情報を読み取ったり、自分の意見を表現したりする活動を、ICTを活用して取り組む。 全ての生徒がスムーズに課題に取り組めるよう、適切なICTの活用を推進する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○進んで発言する生徒が多い。ノーチャイム制をとるが、授業開始時には学習できる環境が整っている。 ●自分で計画を立てて勉強することを苦手とする生徒が多く、特にテスト前でも家庭学習が十分できていない生徒がいる。	・学習内容や学習態度の振り返りを自ら行い、その成果と課題を明らかにした上で、自主的に学習に取り組むことができる。	・自主学習ノートのコンテストを行う。 ・個々に目標設定をさせ、達成できるように支援する。 ・「テスト前計画表」の確認を行う。	テスト前には、「テスト前計画表」を毎日提出させ、学習状況を確認する。	・自主学習ノートのコンテストを十分に実施することができなかった。 ・「テスト前計画表」を有効活用し、ほとんどの生徒が期限までに課題を提出することができた。しかし、期限に間に合わなかった生徒もあり、生徒に合わせた声かけや課題の量の調整が必要であった。	テスト前計画表を確認し、生徒に合ったアドバイスができるようにする。家庭学習の充実につながる課題の設定を行う。

令和2年度 学力向上ロードマップ

